

アンケートの結果

参加学生の特徴

性別では、男性(36.8%)よりも女性(62.7%)の方が多く、学年では、2回生が最も多く(54.7%)、次いで3回生が多い(24.9%)。それらを合わせると79.6%となり、大半を占める。

表1 調査対象者の属性

		人数(人)	割合(%)
性別	男	74	36.8
	女	126	62.7
	不明	1	0.5
学年	1回生	18	9
	2回生	110	54.7
	3回生	50	24.9
	4回生	21	10.4
	不明	2	1
合計		201	100

実習の評価

農業や食に対する学びや考え方の変化について5段階評価で尋ねた(図1)。

その結果、「農業の問題を解決する職業に就きたい」以外の項目では、「思う」「非常に思う」と回答している者が80%程度あるいはそれ以上存在しており、農業の実態や食の安全・安心について学ぶという実習の目的は達成できたと考えられる。また、「専門を活かした仕事に就きたい」や「専門分野への興味」に関する項目では、「思う」「非常に思う」と回答している者が80%程度存在することから、専門性を深めるうえでも有意義な実習であったと考えられる。

実習の満足度を4項目で尋ねた(図2)。

その結果、「実習内容」は94.0%、「総合的満足度」は96.5%の者が「思う」「非常に思う」と回答していた。また「宿泊施設」についても75.6%の者が「思う」「非常に思う」と回答しており、生活面も含めて実習の満足度は高いことが示された。また、「また機会があれば参加したい」においては79.1%が「思う」「非常に思う」と回答しており、その点からも実習に対する評価は高いことが考えられる。

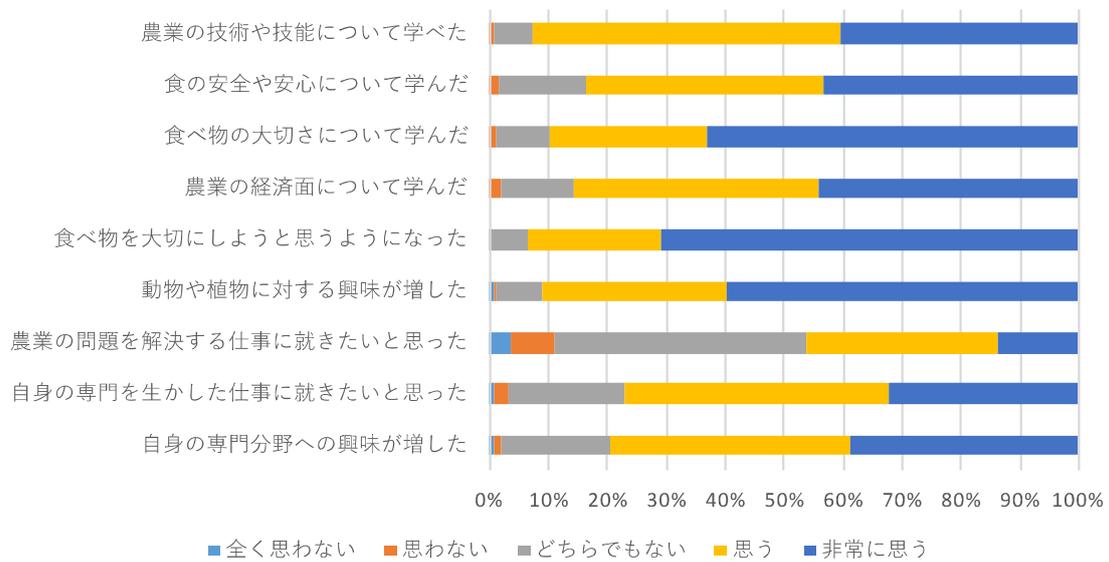


図1 実習参加による学びや考え方の変化

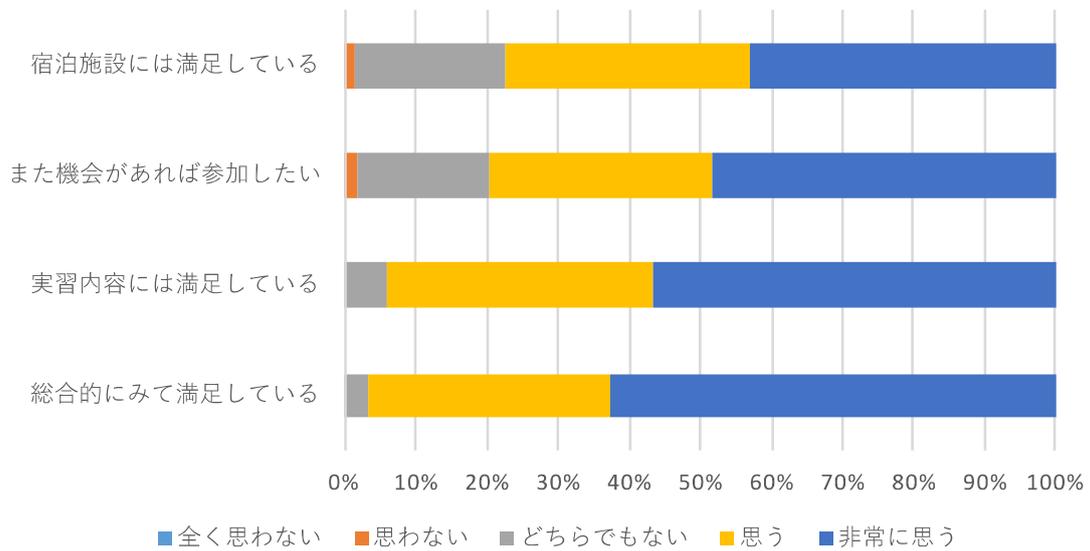


図2 実習に対する満足度